

Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka



ともだち

NO.130

2022年12月

## この一年 CALO の活動

＝例会は対面とオンラインのハイブリッド型で＝

皆さん、ご無沙汰しています。あっという間に12月になり、もう数日で、2022年にさようならを言う時がきました。

今年のCALOの例会は、新型コロナウイルスの流行に伴い、対面とオンラインのハイブリッド型で行いました。

今年は前回のアミーゴスでもお知らせしたように、コロナ禍前に印刷して余っていた分の算数

ドリルをペルーのラマス校で配りました。校長先生から感謝の手紙を頂き、困っている点も教えてもらいました。そして、印刷機、衛生品など購入するための支援を依頼されました。

例会で検討し、クリスマスキャンペーンを呼びかけて、できる範囲でサポートして行きましょうと決め、皆さまにご協力を求めることになりました。

算数ドリルの配布事業活動は休止し、絵本の配布とラマス校のようなすでに交流ある学校の支援をしていこうということになりました。

(現在はまだペルーとの運輸事情により絵本の配布は再開されていません)



## 図書室をありがとう！～コマス校から～



長年支援してきたコマス校から連絡があり、今年の3月から対面授業を再開したことがわかり、図書室ができて初めて利用している子どもたちの写真も送られてきました。

この図書室は、コロナ真っ最中であった2020年にCALOの協力で作られたものです。図書室とともに絵本を何冊か寄付しました。ペルーではコ

ロナ禍になってから子どもたちが学校に行けず、2年間はずっとオンライン授業でした。2年ぶりに同級生、友達と再開した子どもたちはどんな気持ちだったのでしょうか？送られた写真で、一生懸命絵本を読んでいる子どもたちの姿が確認できます。日本の公立学校では当たり前にある図書室ですが、ペルーでは授業料の高い私立学校でもなければ図書室などありません。

パンデミックで失業率が上がり、さらに、ロシア・ウクライナ戦争の影響、ペルーの政治事情の悪化でどんどん格差が広がっています。貧しい人がさらに貧しくなり、裕福な人はさらに裕福となっています。こんな状況を改善するためには教育の機会を均等に全ての子どもたちに提供する必要がありますが、とりわけ「質の高い教育」を子ども達に提供することはSDGSの目標としても重要となります。CALOの支援が質の高い教育を子ども達に提供することに貢献できたのではないかと思います。

図書室で絵本を読んでいる子ども達の写真を見て、環境を整えることができたことが確かめられ、改めて皆さんに感謝いたします。これからも、CALOの活動内容を検討しながら、少しでも「質の高い教育」をペルーの子どもたちに提供できるようなサポートをしていきたいと思っています。

どうぞ2023年もどうぞよろしくお願ひ致します。

## ＝ペルーからの現地報告＝

## &lt;2年ぶりの対面授業の新たな課題&gt;

CALOの皆様、お元気でいらっしゃいますか。ペルーの現地スタッフのジャネットです。今年2022年3月からペルーでは2年ぶりの対面授業が再開しました。私には日本に親戚がいますが、日本では、学校が閉鎖され、オンライン授業となったのは2、3週間だと聞いています。ペルーは2年もの間、子ども達は家の中で閉じ込められる状態となり、学校が再開してからあらゆる課題が出てきています。その課題について、姉（ジェシカ サンペ）が新聞に載せた原稿をご紹介します。ペルーのパンデミック後の新たな課題となっています。

## &lt;新聞“ペルー21”より&gt;

ジェシカ・サンペ氏：  
Innova Schools（インノバ・  
スクール）の教育マネージャ



パンデミックやその他の青少年や若者と身近に関わり、一緒に働いている私たちは、彼らがパンデミックの影響を最も受けている集団の1つであることを認識しています。死亡者数が最も多い年齢層ではなかったかもしれませんが、今日、精神的な健康（メンタル

ヘルス）への影響が最もある集団だと思っています。

2021年末に、ユニセフが調査した8,000人の若者のうち、27%が不安を感じ、15%がうつ病を感じたと主張し、経済状況が彼らの感情に影響を与える主な理由であると報告しました。この同じ研究では、「未来に対する展望はマイナスの影響を受けている」と言及されており、女性は男性よりも悲観的であり、それぞれ43%と31%でした。

このように、ペルーのより良い未来を確保したいのであれば、青少年と若者のメンタルヘルスケアに注目しなければならないのです。しかし、学校では、情緒面のサポートサービスが不十分であるか、またはほぼ存在しないとわかりました。教師は、助けを求める生徒からの強い要求に圧倒されています。この状況は、国立病院や私立診療所でサポートを求める場合にも似ています。そのため、精神保健サービスを増やし、あらゆる種類の健康保険に含めることが緊急に必要であると考えています。

国として考慮すべき追加のシナリオは、今私たちが経験している政治的および経済的危機であり、それらの危機が青少年や若者の将来の見通しにも良くない影響を与え、このままでは近い将来への希望がどんどん小さくなってしまいます。

今こそ、青少年や若者が求めている新しいニーズに耳を傾けて、サポートをすべき時になっています。彼らが「このような自分になりたい」と目的意識を持って、学習し成長し、今後のペルー、そして世界を変えるための原動力となれるよう支援していきたいです。

(翻訳：オチャンテ・ロサ)

### クリスマスおめでとう!



### 例会の報告

今年に入ってからコロナ禍の影響を受けてあまり活発に例会を持つことができなかったことは残念でした。

9月17日：on line 参加5名。

10月15日：on line 参加4名

11月19日：例会なし。

12月17日：久しぶりの例会。マスク、換気で窓やドアを開け放って。今後の活動について話し合った。

### CALOの例会予定

1月21日(土) オンラインで開催

\*急に開催できない時があるの

で、新しく参加いただく方は一応

お問い合わせください。

(09087540059 梶田まで)

あとがき：皆さん、今年2回目の Amigos です。コロナ禍で対面で集まることは少なくなりましたが、CALOとして今後もできることを探りながら、進めていきたいです。実際には例会に参加するメンバーは少なく、コロナ禍、家庭や仕事の事情で毎回集まるのが難しくなりましたが、焦ることなく、気楽に、少ない人数でもできる活動を継続します。

厳しい外部環境のなかで、変わることなく支援してくださっている皆様に心から感謝します。現在はできる活動は少ないかもしれませんが、ペルーの子ども達に「質の高い教育」を少しでも提供できる支援を続けたいですし、ひきつづき Amigosを通して皆さんと繋がっていければと思っています

皆様良いお年を!! 来年もどうぞよろしくお祈りいたします。(R)